

二〇二〇年度 茨城キリスト教大学入学試験問題

国語 (B日程)

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章は、上手に話すための方法を解説したものです。文章を読み、後の問に答えなさい。

情報を理解する時に用いられる暗黙の思いこみが、ステレオタイプである。^(注1)たとえば、次の文章はある研究者が、ふと思い立つて研究室に急いで戻った様子を描写したものだ。

「実験室に入ると、白衣を着てすぐにマウスのゲージに近づいた。彼女は、一匹のマウスを取りあげると……」
眼球運動を計測してみると、多くの読者が「彼女は」の部分で下から上に(元の実験では英文なので、右から左へ)視線を戻すことが知られている。

読者が暗黙の裡に、研究者を男性だと思って読んでしまっているため、整合しない情報が出てくると、情報を再び取り入れようとしていることが示唆される。

マウスを扱う研究者には女性もかなり多い点には、注意していただきたい。
この結果は示している。
A、ステレオタイプが頑健に存在しているということを

^(注2)このようなミスリードを生む可能性があるにもかかわらず、人の最初の判断にはデフォルト(既定値)が用いられる。

それは、デフォルトが最ももつともらしいからにほかならない。これは言葉遊びや冗談ではなく、コストの問題である。

人の脳の仕組みはよくできたもので、多くの場合に認知的なコストをできるだけ節約するものが選ばれる。それは、シャボン液がエネルギーの損失を最小にするために球を形作るのに似ている。高いところから低いところへ水が流れるように、特に断りがなければ、目的地へとつないでくれる既知の最短経路を行くのだ。

このような仕組みが働いているので、多くの人が最初に思い浮かべる状況と違うことを説明しようとする時には、話を始める前に、そのことをまず断っておくとよい。

B、ステレオタイプはすぐには変容しないので、違う状況であることは一度言えばおしまいというのではなく、必ず繰り返し言うことも

忘れてはいけない。

人の知性を描き出す代表的な考え方に、スキーマschemaというものがある。スキーマとは知識のまとまりのことである。たとえば、「鳥」について私たちはなにを知っているだろうか。

羽があり、くちばしがあり、だいたい空を飛ぶ。地味なところで言えば、爪つめがあり、足には鱗うろこがある。恒温動物ことうおんだという知識も持っているかもしれない。

ここからわかるのは、鳥についての知識は一つひとつが独立にあるのではなく、互いに関係しあつて頭の中に保持されているということだ。これを鳥スキーマと名づけていいことにしよう。

C、私たちはいろんな〇〇スキーマを持っていることがわかる。自動車スキーマに学校スキーマ、いろいろとあるだろう。落語なら、だいたい親から勘当される若旦那スキーマ、なんていうものも考えることができる。

スキーマは、知識のまとまりなので、それが助けになって理解が一気に進むということがよくある。たとえば、私たちには日本の学校スキーマがあるので、アニメの学園モノを見た時、学年の違いや教師と生徒の典型的な関係といった事柄をすぐに把握できる。

D、そのアニメのなにかドラマチックなかを理解できる。

話の急展開に驚いたり、登場人物の振る舞いに共感したりできるのも、スキーマのおかげなのだ。

だが、その裏返しとして、どのスキーマを使えばいいのか全くわからない場合には、一から一〇までなんのことかわからないということも起こる。不思議な事態だ。言葉として一つひとつの単語の意味はわかるのに、文全体としてなにを説明しているのかわからない。

たとえば、次の文章はなんのことだろうか。

① 動いていく先は右でも左でもいい。場合によつては、人が入れないところで起こる。風に注意を払わなくてはならない。撥はねたり動いたりして動ききが続けていても、地面にいたら終わりである。人に捕まとつて終わることもある。

これは、野球のファールボールのことを描写している。

このような、スキーマが理解を助ける働きについての研究は、ジョン・ブランスフォードとマルシア・ジョンソンが洗濯の手順を例に論じたことに端はを発している(注5)。(一九七二)。

この例も、ファールボールのことだとわかれば、一つひとつの文がなにを意味しているのかもすぐにわかる。

E、さきほど実感した

ように、これがなんのことなのか説明されていないと、読者には文章がなにを意味しているのかわからない。

簡単に言えば、個別の情報をまとめあげたもので、理解するために必要な、一連の少し抽象化された知識がスキーマだ。実的な面を強調するなら、話の内容を伝える時に、スキーマの働きを使うと効果的であることがよくある。

内容を仔細しさいに説明しなくても、「ほら、フールボールのことですよ」と一言言えば、それで十分に伝わるからだ。非常に便利だ。

だがこれは、同時に誤解を招くおそれがあることは知っておこう。それは、人はスキーマに沿って理解するので、話し手と聞き手とのあいだで使っているスキーマの内容が異なる時、必ず誤解を生じることだ。

②
コントのネタのようだが、一人が政治家のつもりで「先生」と使い、もう一人が教師のつもりで「先生」と使ったとしよう。それぞれ政治家スキーマと教師スキーマが活性化されて、互いに誤解してしまうことになる。さらにもう一人が医者いしやのつもりで「先生」と使ったら、もう收拾しゆじがつかなくなるのが想像できる。

スキーマの働きがよくわかる落語に『勘定板』かんじょういたという噺はなしがある。

ある海辺の村では、板切れを紐ひもで杭くわにつなぎとめておき、便所として使っていた。潮が満ちると板もその上のもも流されるが、潮が引くと板は、紐があるので砂浜に残る。村人はこの板のことを「勘定板」と呼び、用を足すことを「勘定をぶつ」と言っていた。

ある日、この村の者が都会へ旅行に出かけた。「勘定をぶちたくなつた」と言われた宿屋の番頭は、機転を利かしたつもりでそろばんを出す……話がかみ合わず、さあ大変という噺だ。

このような混乱は、スキーマ自体というよりも、使用しているスキーマのずれに起因している。だから、はじめてのところで話す時や普段とは異なる分野で話す時には、スキーマがずれていないか、話で使う用語が意図した意味で受け取られているかに注意しよう。

(野村亮太『口下手な人は知らない話し方の極意』より)

注1 ステレオタイプ……多くの人に受け入れられている固定観念、先入観。ステロタイプ。

注2 ミスリード……読み手に間違った解釈をさせること。

注3 デフォルト……あらかじめ設定されている値、条件。

注4 ジョン・ブランスフォード……John D. Bransford。アメリカの心理学者、教育学者。

マルシア・ジョンソン……Marcia K. Johnson。アメリカの心理学者。

注5 一九七二……ここでは、一九七二年に発表された注4の二人の論文であることを示す。

問一 空欄 A へ E に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------------|--------|--------|--------|
| A | ア さらに | イ それは | ウ それでも | エ もつとも |
| B | ア それにもかかわらず | イ たとえば | ウ すると | エ また |
| C | ア すると | イ そのため | ウ しかし | エ それは |
| D | ア だからこそ | イ その上 | ウ その反面 | エ しかし |
| E | ア したがって | イ また | ウ たとえば | エ ところが |

問二 傍線部 X に「コストの問題」とありますが、これはどういうことですか。最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人は脳の消費エネルギーを節約するため、自分と関係ないことには注意を払わないこと。
- イ 初めから多様な可能性を考えるより、可能性が高いものにしぼって考えたほうが効率的なこと。
- ウ 自らの頭で考えるより、多数派の意見や考えに従ったほうが楽なこと。
- エ 日常生活で人が使うエネルギーには限りがあり、無駄遣いしてはならないこと。

問三 傍線部 Y の理由として最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 使われている日本語自体はやさしい反面、内容が非常に抽象的だから。
- イ 説明が細かすぎると、かえって何のことかわからなくなるから。
- ウ 前提となる知識が思い起こせないため、文章を理解することができないから。
- エ 単語の意味が理解できても、単語どうしの関係が理解できるとは限らないから。

問四 ①の部分のように、スキーマの働きが分かる例を、解答例を参考にして自分で考えて、百字以内で書きなさい。

解答例

(凧) を描写している例

紙やビニールと長い糸で作る。やる場所は大通りより公園がいい。はじめは走らないといけない。コツが要るが子どもでもできる。広い空間が必要で、これを同じ場所で同時に多くの人がやると大変だ。

問五 ②の部分について、この例と類似する例として最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 電話で「四日に会いましょう」と伝えたのに、相手は八日にやってきた。

イ 人が多くいる場所で、遠くの人を指さして「あの人は誰ですか」と聞いたたら、「どの人ですか」と言われた。

ウ メモをとるために「紙をください」と頼んだら、鼻をかむティッシュペーパーを相手から渡された。

エ 「私のお父さんは会社員です」と言ったら、「私の父は会社員です」と言うべきだと訂正された。

問六 この文章は、内容の点から大きく2つの部分に分けることができます。後半の部分が始まる文のはじめの五文字を書き抜きなさい(句読点を含みます)。

問七 次の1～7の文について、内容にふさわしいものには○、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 ステレオタイプは、たとえ現実と異なっていたとしても簡単には変わらない。
- 2 研究者はふつう男性だというステレオタイプは時代遅れであり、なくしていかなければならない。
- 3 スキーマは、人が物事を理解するのに必要である一方、時として誤解を生む要因にもなる。
- 4 「先生」や「勘定板」の例のように、スキーマはコミュニケーションを阻害するものとして知られている。
- 5 物事の本質を理解するのに、スキーマは良いものだが、ステレオタイプは悪いものである。
- 6 円滑なコミュニケーションのために、あいまいな「先生」の代わりに「政治家」「教師」「医者」と言葉を使い分けるとよい。
- 7 聞き手と話し手が思い浮かべるスキーマがずれていると、うまく話が通じない。

II

問一 次の①～⑤の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ① 風がやんだら、海も凪いできた。
- ② 母は台所でいつも割烹着をつけていた。
- ③ 彼は古典に蘊蓄が深い。
- ④ 大臣の発言が物議を醸す。
- ⑤ 国王への拜謁が許された。

問二 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① この地方の土はトウキ作りに適している。
- ② ゴウカナパーティーに出席する。
- ③ この土地はヒヨクなので作物がよく育つ。
- ④ 私の著書をキンテイいたします。
- ⑤ ケイリユウに沿って山を登る。

問三 次の①～⑤の四字熟語中の□に当てはまる漢字を、それぞれ a～dの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 醉生□死 | 深山□谷 | 熟慮断□ | 泰然自□ | 一罰□戒 |
| a | a | a | a | a |
| 覚 | 幽 | 交 | 若 | 十 |
| b | b | b | b | b |
| 幻 | 浅 | 行 | 嘲 | 百 |
| c | c | c | c | c |
| 起 | 冥 | 考 | 照 | 千 |
| d | d | d | d | d |
| 夢 | 遠 | 抗 | 然 | 万 |

問四 次の①～⑤の慣用句（傍線部）中の漢字が正しければ○、間違っていれば正しい漢字一字を、解答欄の□の中に書きなさい。

- ① いつ終わるか分からない議論に、性も根も尽き果てた。
- ② 最近の若い人は優秀だ。後生畏るべしだね。
- ③ あの人は体格は良いけど、気が弱い。いつも張り子の牛と言われている。
- ④ 幼いころから蝶よ花よと育てられた。
- ⑤ 台風が来る前に補強工事をした。まさに先手を待たね。

問五 次の①～⑤の意味を表す語句として最もふさわしいものを、それぞれa～dの中から選び、記号で答えなさい。

- ① 自分の能力を優れたものと信じていなく誇りのこと。
a 一途 b 節操 c 矜持 d 覇気
- ② 言わないほうがよい、言わないでほしい、また言うまでもないこと。
a 言わずもがな b 言わぬが花 c 言わずと知れた d 言わず語らず
- ③ あることが実際に起きるかどうか、その確かさの度合い。
a 潜在性 b 信憑性 c 実効性 d 蓋然性
- ④ 特別な能力・資質によって人を自在に操り、統率できる力のこと、またそれを持つ者のこと。
a エキスパート b ワンマン c カリスマ d オーソリテイ
- ⑤ 思いがけない仕合わせ、幸運のこと。
a 至福 b 僥倖 c 命数 d 禍福

